

「雇用によらない働き方」、その実態・政策と雇用の未来

高田好章

資本主義社会では、資本家と労働者という二つの主要階級がある、とされてきている。しかしながら、これ以外に地主、小生産者などの多くの階級・階層がある。特に、ここで問題にするのは、個人事業主である。小生産者が親方・徒弟という関係で出来ているのは、資本主義社会以前から続いているが、生産者が一人の場合は個人事業主と呼ばれる。これは一般的には、小さいながらも生産手段を自ら持って製品をつくるか、あるいは小さな商店を構えて、家族経営などで商品を売る、という姿を一番見かける。製品を作る個人事業主は下請体制の下にある場合が、資本主義社会では、一番多くみられる形である。

さて、ここで問題とする働き方は、上記の「個人事業主」という形態をとりながらも、その内実は大いに違っている。生産手段を持たないか、あるいは簡単な生産手段しか持たない「個人事業主」である。生産手段を持たずに働く人は、一般的には労働者と呼ばれ、企業に雇用されて働いている。「雇用」とは、最初に述べた資本主義社会の二つの主要階級のうちの一方の側、労働者階級に属する労働者が働くときに、企業に「雇用」されて働く、という事になる。ところが、「雇用」ではなく、労働者個人が企業との間で、業務契約や請負契約を取り交わして、仕事をするを、「雇用によらない働き方」と呼ぶ。あるいは「雇用関係によらない働き方」や「雇用類似の働き方」とも名付けられている。

これまでも、技術を持った個人事業主が業務契約や請負契約で仕事をしていた。近年問題になってきたのは、これまでに雇用されていた労働者が、独立して、あるいは独立させられて、個人事業主として、これまでと同じ業務で働くことが、多くなってきたことである。一般的には、「フリーランス」と呼ばれる働き方であり、特にインターネットを介して仕事をするクラウドワーカーが増えてきた。仕事をサイトで紹介するプラットフォームが企業とフリーランサーを仲介するクラウドワーキングが急成長している。ここで問題点として挙げられるのは、技術的に高度な仕事だけでなく、むしろパソコンの入力作業などのように、単純労働の仕事が多い事であり、したがって、その工賃も低価格であり、「デジタル土方」と揶揄される仕事である。企業にとっては、社内の仕事をアウトソーシングすることによるメリットを享受できる。それは派遣労働者を導入することと同じ論理が貫かれている。すなわち、必要な時に取り入れ、必要でない時にはいつでも切れる。

このようなクラウドワーカーはすでに500万人いるとも報じられ、またフリーランス人口は1千人を超えている、との調査もある。ここには副業とする人々も含まれている。巷の雑誌やインターネットのサイトでは、月100万円は稼げる、時間と場所にとらわれないあたらしい働き方、と書き立てられている。しかしながら、全てのフリーランサーがこのような環境にあるわけではない。クラウドワーカーの平均月収は7.3万円というア

ンケートがあり、Webライターが1時間で書いた記事の工賃は87円、つまり時給87円であり、毎日13時間働き、年末年始も休みない、という働き方が報じされている。彼らは個人事業主であるために、労働法は関係なく、最低賃金も労働時間制限もない世界なのである。

フリーランスに関係する問題として、シェア・エコノミー、あるいはギグ・エコノミーがある。映画製作を行う場合、その作品毎にメンバーが集まり、その仕事が終われば解散し、再び次のプロジェクトには新たに集まる、そのような働き方が未来の働き方だと述べられている。それはフリーランサーだけでなく、企業内の従業員も、同様にプロジェクト型の働き方によって変わっていく、と説くのである。そこでは、フリーランサーと従業員の仕切りは非常に低いものになる。自分に力量があれば、従業員からフリーランサーとなって、多く稼ぐのである。雇用されていないので失業はないが、仕事の注文がなければ、稼ぐこともできなければ、生活もままならない世界である。実際に、企業が年金・健康保険などの社会保障負担を免れるために、雇用している労働者を個人請負に切り替えることがアメリカで横行しているという。

このような「雇用によらない働き方」の増加に対して、政府は「働き方改革」のひとつとして大いに取上げ、「時間・場所・契約にとらわれない、柔軟な働き方」「働き方改革」の「鍵」であるとして、経産省・厚労省の研究会・懇談会を開催して、政策提言を行っている。

このような「雇用によらない働き方」が、はたして未来の働き方なのか、働く人びとにとって望まれる働き方なのか、大いに疑問である。それにもまして、はたして「雇用」という働き方がない資本主義社会は可能であるのだろうか。単に「雇用」ではない、という擬制の上に立っている働き方ではないのか。このような働き方は、資本主義に何をもたらすのか、大いに議論をしてみたい。